

磨き抜かれた美音
究極のアンサンブル

ベルチャ 弦楽四重奏団

B E L C E A
Q U A R T E T



様々な文化的背景に裏打ちされた個性が集い
一つの心と身体を持ったカルテット

©Maurice Haas

アントワーヌ・レデルラン
チェロ

Antoine Lederlin, Cello

コリーナ・ベルチャ
ヴァイオリン

Corina Belcea, Violin

カン・スヨン
ヴァイオリン

Suyeon Kang, Violin

クシシュトフ・ホジェルスキー
ヴィオラ

Krzysztof Chorzelski, Viola

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第4番 ハ短調 op.18-4
Ludwig van Beethoven: String Quartet No.4 in C minor, op.18-4

ブリテン:弦楽四重奏曲 第3番 ト長調 op.94
Benjamin Britten: String Quartet No.3 in G major, op.94

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 op.127
Ludwig van Beethoven: String Quartet No.12 in E flat major, op.127

2024.

6/30 日

2:00PM開演 (1:30PM開場)
A ¥5,000 B ¥4,000 (税込/全席指定)

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口スグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

一般発売

2/18 日

芸術文化センター
チケットオフィス

0798-68-0255

(10:00AM - 5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)

インターネット予約

<https://www.gcenter-hyogo.jp>

※窓口での販売(残席がある場合)は2/20(火)より

芸術文化センター会員
先行予約受付開始

2/16 金

※未就学児はご入場いただけません。
※やむを得ない事情により、出演者・曲目等が
変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。



兵庫県立
芸術文化センター



主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

多様性に満ちた現代最高峰のカルテット

アマデウス四重奏団、アルバン・ベルク四重奏団の伝統を継ぐ

待ち望んだ再訪! 2022年10月、衝撃の芸術文化センター初登場を果たしたベルチャ弦楽四重奏団が、神戸女学院小ホールに戻ってきます!

1950~80年代の世界“最強”カルテット、アマデウス四重奏団、アルバン・ベルク四重奏団に師事し、その伝統を継承しながら、さらに現代の息吹を加えて進化させているのが彼らベルチャ弦楽四重奏団です。メンバーは個々に異なる文化的背景を持っていますが、だからこそ、慣習に捉われないこと、それぞれの個性に裏打ちされたダイナミックで自由な音楽解釈を可能としています。

さて、今回のプログラム。ベートーヴェンにとっての特別な調性、交響曲《運命》と同じハ短調で書かれた弦楽四重奏曲第4番に始まり、師・アマデウス四重奏団による委嘱作である20世紀英国音楽の巨匠・ブリテンの名曲へ続き、再度、楽聖「最後の10年」に書かれた孤高の弦楽四重奏曲第12番へと至るといった内容が、もう既に大変個性的です。まさに、磨き抜かれた美音、究極のアンサンブルだと称される彼らだからこそ堪能いただけるプログラムといえるでしょう。

4人の奏者が自在かつ大胆に形創る、しなやかに鮮烈な音楽。ぜひ最高の劇場空間で、心ゆくまでお楽しみください。



コリーナ・ベルチャ ヴァイオリン Corina Belcea, Violin 1755年製 ジョヴァンニ・パティスタ・ガダーニ (MERITO弦楽器信託より貸与)	アントワーヌ・レデルラン チェロ Antoine Lederlin, Cello 1722年製 マッテオ・ゴフリアー (MERITO弦楽器信託より貸与)	クシシュトフ・ホジェルスキー ヴィオラ Krzysztof Chorzelski, Viola 1670年頃製 ニコラ・アマティ	カン・スヨン ヴァイオリン Suyeon Kang, Violin ジュリア・マリア・パッシュ製作のヴァイオリン
--	---	--	--

ベルチャ弦楽四重奏団の音楽は、情熱と精度、純粋で豊かな表現力によって特徴付けられている。ルーマニアのコリーナ・ベルチャ（ヴァイオリン）、韓国系オーストラリア人のカン・スヨン（ヴァイオリン）、ポーランドのクシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ）、フランスのアントワーヌ・レデルラン（チェロ）の4人で構成され、それぞれの持つ異なるバックグラウンドが一体となり、独自の音楽性を築いている。

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、バルトーク、ヤナーチェク、シマノフスキといった多様なレパートリーを持ち、一方で数多くの現代作品の初演を行い、ギョーム・コネッソン（2023年）、ジョゼフ・フィブス（2018年）、クシシュトフ・ベンデルツキ（2016年）、トーマス・ラルヒャー（2015年）、マーク＝アンソニー・タネジ（2014年・2010年）等の作品を演奏している。今シーズンはジュリアン・アンダーソンの初演が予定されている。これらの新曲は自身が創設した「ベルチャ弦楽四重奏団信託」との共同委嘱であり、弦楽四重奏のレパートリーを継続的に拡充するとともに、若手演奏家を指導しサポートすることで、アマデウス四重奏団とアルバン・ベルク四重奏団から受け継いだ伝統を次世代へと繋いでいくことを目標としている。

バルトーク、ベートーヴェン、ブラームス（2016年ディアパソン・ドール賞受賞）、ブリテンの全曲録音に加え、ベルク、デュティユー、モーツァルト、シェーンベルク、シューベルト、ショスタコーヴィチ、ヤナーチェク&リゲティ等の録音をリリースしている。2022年春、アルファ・クラシックスからタベア・ツィンマーマンとジャン＝ギャン・ケラスとの共演で『ブラームス：弦楽六重奏曲 第1番&第2番』をリリース。2012年にウィーン・コンツェルトハウスで開催した〈ベートーヴェン：弦楽四重奏曲全曲演奏会〉は、フランスのMezzo TVで放送され、2014年にはユーロアーツ・レーベルよりドキュメンタリー『ベートーヴェン弦楽四重奏曲への道筋 (Looking for Beethoven)』がDVD & Blu-rayとしてリリースされた。また日本においてもクラシカ・ジャパンで完全放送された。2015年には同レーベルからDVD『ブリテン：弦楽四重奏曲全集』をリリース。


2017~2020年にピエール・ブレーズ・ザールのアーティスト・イン・レジデンスを務め、現在も定期的に演奏している。2010年よりウィーン・コンツェルトハウスのレジデンス・アンサンブルの一つとして活動し、昨シーズンよりエベヌ弦楽四重奏団がパートナー・アンサンブルとして加わった。

2023/24シーズンは、パリ、リスボン、アムステルダムで開催されるストリング・カルテット・ビエンナーレに客演するほか、カーネギーホール、ハンブルク・エルブフィルハーモニー、ブリュッセルのフラジェ、ダブリン国立コンサートホール、チューリッヒ・トーンハレ、東京のトッパンホールなど、数々の著名ホールに登場する。

<https://www.gcenter-hyogo.jp>

兵庫県立芸術文化センター
 Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員へのご登録はこちら



便利なアクセス!!
 大阪・梅田からも神戸・三宮からも
 ホールまで15分
 (阪急電車特急乗車の場合)

◎ 阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ(連絡デッキで直結)
 ◎ JR 西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)
 ※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

